

# しおさい



初夏の尻屋崎は花盛り

## CONTENTS

- 広報誌「しおさい」第30号の発行にあたり：東通原子力発電所長 おがさわら かすのり 小笠原 和徳・・・2
- 地域とともに歩む発電所を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 「しおさい」の表紙を彩る東通村の魅力・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 特集30号記念 東通村移住者座談会・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 地元の特派員レポート：二本柳莉央さん／三國 にほんやなぎのお 正道さん みくに しやうどう・・・・・・・・・・8

記念号



東通村イメージキャラクター  
かんだちくん



# ❧ 広報誌「しおさい」第30号の発行にあたり ❧

東北電力東通原子力発電所広報誌「しおさい」は、おかげさまで、節目の第30号を迎えることとなりました。

「東通村の素晴らしさを皆さまと共有するとともに、その良さを未来へ引き継いでいきたい」との思いから2006年に創刊し、これまで発行を継続できたのも、皆さまからの温かい励ましと貴重なご意見の賜物であると深く感謝しております。

さて、今回は、「東通村移住者座談会」と題し、東通村に移住された方々のお話を紹介する特別企画を掲載いたしました。

移住を決めた当時の動機や転入時の心境、東通村での暮らしの様子や次世代の移住者へのアドバイスなど、幅広いテーマでお話を伺いました。読者の皆さまには、村外から移住された方々が東通村をどのように見

て感じたかをご覧ください、東通村の魅力を再認識いただければ幸いです。

これからも、地域に密着し親しんでいただける広報誌を目指してまいりますので、引き続きのご愛読をよろしくお願いいたします。

最後に、私ども東北電力は、1965年に原子力発電所の誘致決議をいただいて以来、半世紀以上にわたり、地域の皆さまとともに歩んでまいりました。これもひとえに、地域の皆さまのご理解とご協力のおかげと深く感謝しております。

今後も、コーポレートスローガン「より、そう、ちから。」のもと、所員一人ひとりが地域に寄り添い、東通村のさらなる発展に貢献できるよう行動してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



東北電力株式会社  
執行役員 東通原子力発電所長

お が さ わ ら か ず の り  
小笠原 和徳

# ～ 地域とともに歩む発電所を目指して～

## 地域のイベントや環境保全活動への参加

地域のイベントや環境保全活動への参加を通じ、地域の皆さまとのふれあいを大切にしています。



東通村産業まつり



東通ドン!とボン盆フェスタ



北部海岸清掃



東通ライオンズクラブ清掃活動

## 地域の未来を担う子どもたちの教育支援活動

子どもたちが個性や才能をのびのびと発揮できる環境作りや、環境・エネルギー教育をお手伝いしています。



東通小学校 スクールコンサート



東通中学校 文化・スポーツ活動支援



東通中学校 環境・エネルギー教育支援  
(八戸火力発電所見学)



東通小学校・東通中学校への  
図書寄贈

## 東通村の魅力発信

東通村の皆さまはもとより、村外の多くの皆さまに、地場産品や豊かな観光資源など、東通村の魅力を発信してまいります。



東通村産品を使った料理教室



物産展の開催  
(仙台市 東北電力グリーンプラザ)



絵はがきプロジェクト  
東通村魅力伝わる写真コンテスト



東通村PR動画の作成  
動画はこちら➡



## 「東北電力 あがさいホール」での活動

「東北電力 あがさいホール」は、本年3月をもっておかげさまで2周年を迎えました。今後も「賑わい」と「交流」の場として、地域の皆さまと一体となったイベントを開催してまいります。



2023東通村民カレッジ  
下北の能舞 鐘巻



2023東通村民カレッジ  
地域を知る活動 尻屋エリア編



ひがしどおり卓球教室



クリスマスコンサート

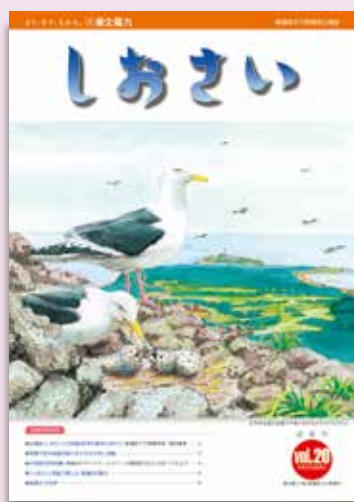
# 「しおさい」の表紙を彩る 東通村の魅力

皆さまから好評をいただいている  
広報誌「しおさい」の表紙。  
東通村の風景や風物詩をやわらかい  
水彩画で表現しています。  
魅力あふれる地元ならではの四季。  
目を閉じると豊かな自然の息吹が  
聞こえてきそうです。



第10号の記念号では、創刊号から9号まで、第20号の記念号  
では、10号から19号までの表紙を掲載し好評でした。  
本記念号では、20号から29号までの表紙を振り返ります。

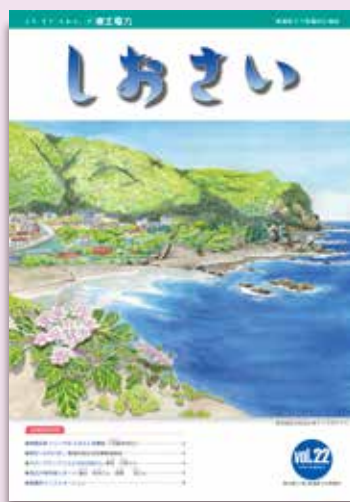
## Vol.20 太平洋を望む岩場で子育てをするオオセグロカモメ



「村の鳥」に指定されている  
オオセグロカモメ。太平洋  
から吹く風が肌に心地い  
新緑の季節には、子育て  
の最盛期を迎える。尻労  
地区はオオセグロカモメの繁

殖地となっていて、断崖の海岸線を舞うその勇姿は、深い感動を与えてくれる。

## Vol.22 尻労地区の浜辺に咲くハマボウフウ



太平洋に面した漁業中心  
の集落、尻労地区。海岸の南  
側は長く続く砂浜、北側は  
断崖が連なる2つの自然美  
を有している。山は新緑と  
紅葉が美しく、浜辺は貴重

な海岸植物が見られ、また食べ物も美味しい。なぜか、田舎のリゾート地を思わせる。

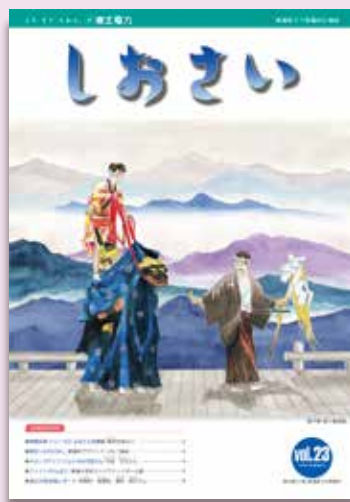
## Vol.21 イチイの巨木と尻屋八幡神社



尻屋地区の深い杉木立に  
囲まれた小高い場所に鎮座  
している尻屋八幡神社。真  
赤な社殿と長い階段に3つ  
の鳥居が立ち、赤色の輝き  
を放っている。階段の登り

口には「村の木」に指定されているイチイの巨木があり、冬には雪の白さに赤、濃緑の絶妙な美しさが印象深い。

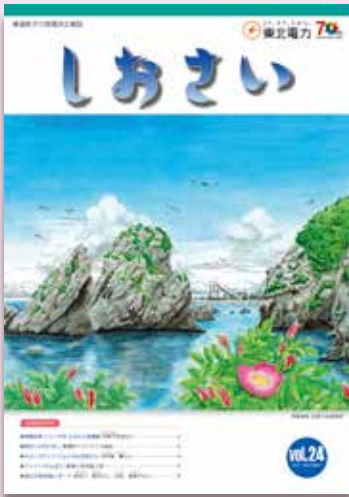
## Vol.23 獅子舞「乗り権現舞」



東通村に数多く伝わる伝  
統芸能のひとつ、獅子舞。そ  
の中の「乗り権現」といわれ  
る演目は、古くから新築の  
家屋の祈祷「屋固め」で披露  
されてきた。茅葺き屋根

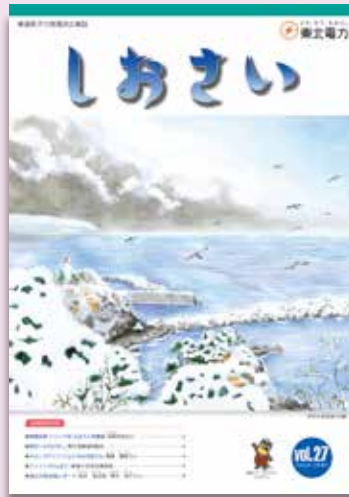
だった往時は、天井が高く舞うことができたが、近年の家屋は天井が低く舞う機会も少なくなっている。

Vol.24 津軽海峡、初夏の岩屋海岸



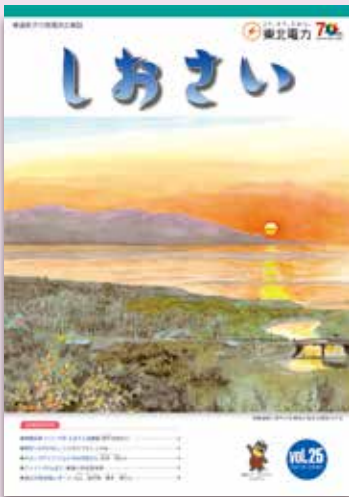
津軽海峡に面した岩屋地区の初夏の海岸風景。東通村の海峡側は大部分が砂浜だが、岩屋地区が唯一岩礁地域である。点在する荒々しい岩と、その合間から眺めるセメントプラントの風景が絶景である。春、夏には磯辺の花が咲き誇り、心が和む風景である。

Vol.27 初冬の物見崎(白糠)



東通村と六ヶ所村の境界に突き出た、風光明媚な物見崎。灯台が立ち、太平洋を往来する船の守り神となっている。凍てつくような長く厳しい冬も凜として立つ灯台の力強さは、海、山の風景と相まって、見る人に深い感動を与えてくれる。

Vol.25 津軽海峡と野牛川を真赤に染める晩秋の夕日



野牛地区の村営牧場から眺めた津軽海峡と野牛川の晩秋の夕景。ただただ赤い景色が視界いっぱい広がっていて、曲がりくねった野牛川の水面が黄金色に反射し、その眩しさがとても印象深く、寒さを忘れてじっと立ち尽くし眺めてしまう。

Vol.28 庁舎前に咲き誇るタンポポの群生



5月の庁舎前の光景。多くの人が見慣れているタンポポであるが、一枚一枚の花弁は繊細で、群生している姿はとてつとて圧巻である。厳しい冬が続く東通村で暮らしているからこそ、タンポポが力強く咲き誇る様子は、春の訪れを感じさせ、その美しさに思わず足を止めて見とれてしまう。

Vol.26 初夏の桑畑山から尻屋崎とアタカ(寒立馬越冬地)を望む



東通村一の標高を持つ山、桑畑山からの春の眺望。澄んだ空気、遠くに小さいながらも白亜の尻屋崎灯台がハッキリ見える景色は絶景である。春から夏にかけて山ツツジやアズマギクなどさまざまな草花が咲き誇る。爽やかな風が少し汗ばんだ肌にとてつとて気持ちがいい。

Vol.29 太平洋の荒波を背景に舞う老部敬神会の踊り獅子



東通村の伝統芸能である神楽のひとつ「踊り獅子」。目名地区に1827年(文政10年)に伝わったとされるもので、華やかで躍動的な場面が多く、足さばきに妙がある神楽だ。太平洋の荒波を背景に豪快さと華やかさの中に強烈な神聖さを感じる。

# 東通村 移住者座談会



## 人懐っこく寛容な人たちが、みんなの挑戦を応援してくれる東通村

東通村には、県内外から移り住み、やりたいことに向かって頑張っている人たちがいます。今回はしおさい30号を記念し、移住した人たちならではの視点で、東通村に対する率直な意見を伺いました。みなさんも東通村の良さを確認し、魅力を再発見してみませんか。

Q.東通村で暮らした感想や、大変だったこと、こうなっ  
てほしいと思うところは？

亀尾 夏涼しいと思ったら意外に暑かったことかなあ。

大谷 私は仕事が終わって帰る途中、星がすごくきれいだ  
と思いました。そして仕事柄、早寝早起きになりました。

濱田 私も子どもと一緒にずっと夜空を見上げて、よく  
星を見ますね。ここに来て時間の使い方と価値観が変化  
しました。

桑原 こども園・小学校・中学校の新しい校舎や、きれい  
に造成された宅地など、役場周辺の景色には驚きました。  
ただ、集落を訪れると、心が落ち着くような農村・漁村な  
らではののどかな風景が広がり、ずっと残ってほしいと  
思います。

大谷 私の住んでいる東栄地区の一部では、携帯電話の  
電波が届かないんです。私の家も電波が届かず、家の電話  
を使うしかありません。

濱田 そうそう、今でも村内で何ヶ所かありますよね、衝撃  
でした。

大谷 緊急時のためにも、電波問題は何とか解消してほし  
いですね。

亀尾 それから、言葉ですかね。最初は、移動販売に行っ  
た先でおばあちゃんが何を話しているのか、分からな  
かった(笑)。

一同 (うなづく)

桑原 野生のカモシカや熊に遭遇した時も驚きました。

Q.東通村に移住したからこそ叶ったことは？

濱田 もともと農業の加工品を作る「6次産業」に興味を  
持っていました。今は、フリーズドライの加工品を作り京都  
の飴屋さんに使ってもらっています。東通村で生産したも  
のが、県外で使われる機会を得たことは、東通村に来て農  
業をやってよかったと思います。

大谷 私は、牛の種付から出産、搾乳ま  
で行っています。命を預かる仕事はとて  
も大変だけど、仕事に打ち込めるのは、  
東通村の充実した教育の支援体制があ  
るから。「幼小中一貫教育」やスクール  
バス運行は、親としてとても助かってい  
ます。安心して子どもを預けられるから  
こそ、仕事にも精が出ます。

亀尾 私は、新卒の社会人としての初  
任地が、ここ東通村です。人と関わる機会が増えたことで、  
いろいろなことを吸収できて、自分の成長につながってい  
ると思います。

桑原 自分の夢である「居場所作り」を実現するために東  
通村に来たのですが、私が東通村に移住したことをきっか  
けに、これまで青森に来る機会がなかった友人が、私を訪  
ねて東通村や青森県を訪ねてくれるようになったことはう  
れしいです。



教育支援体制が  
充実しているから  
仕事に集中できる!

## 出席者プロフィール

おおたに まさし  
大谷 匡司さん(42歳)



ろんな人と連携して、乳搾り体験を行うなど酪農の素晴  
らしさをアピールしたい)。

鳥取県から2011年5月に移  
住。東京の大学を卒業しIT関  
連の企業に就職。学生時代に  
知り合った東通村出身の妻と  
結婚し、子どもが生まれるの  
を機に自ら望んで東通村へ。  
酪農業の跡を継ぐ。90頭の牛  
を育て、種付、出産、搾乳ま  
で行う。家から眺める釜臥山に  
沈む夕陽、夏秋イチゴ、テンポ  
良く上がる東通の花火大会が  
好き。「酪農家は村に今3軒。い

はまだ ゆうこ  
濱田 裕子さん(42歳)



ちにイチゴの摘み取りを体験してもらいました。今後も加  
工品を開発し、イチゴの安定生産を目指します」。

美術系の学校を卒業後、人材  
教育会社に勤務。2016年7月  
イチゴ農家を営む祖父母の跡  
を継ぐため茨城県から移住。現  
在、農業研修中に知り合った夫  
と夏秋イチゴを16棟のハウス  
で栽培。「しもきたマルシェ」の  
事務局。移住して初めて食べた  
牛乳豆腐、尻屋のウニに感動。  
寒立馬と尻屋崎の風景、そば  
街道のイベントが好き。「小中  
学校の課外授業で、子どもた

Q. みなさんステキですね。では、東通村に来て最もよかったことは？

濱田 子育ての環境として、こんなにも手厚くしてくれるんだと思っています。子どもや親が安心できる環境を作ってくれていて、ありがたいなと思います。

大谷 高校生まで子どもたちの医療費は無料、給食費も無料です。イチゴや寒立菜など地域の特産品も美味しいです。

亀尾 以前の私は、どちらかというインドア派でした。東通村に来てからは、活発にイベントに参加するようになり、さまざまなイベントの運営側になれたことは、とてもいい経験ができています。

桑原 東通村のたくさんのいいところを知り、たくさんの人とつながりができたことで、アイデアも広がりました。ゲストハウスに併設する予定のカフェでは、東通産のイチゴやブルーベリーを使ったスイーツも販売するなど、東通村のPRもしていきたいです。

Q. 最後に、東通村の一番好きなところは何か、聞かせてください。

亀尾 人口は少ないけど、夢に向かって頑張っている人同士の距離感が近いところ。何かやりたい人、目標を持っている人には、いい場所だなと思います。

桑原 私は、「東通村には、東通村を好きな人が多いところ」が好きです。そういう人たちに刺激をもらいながら、私自身も東通村をもっと好きになり、夢の実現にまっすぐ向かっていきたいです。

大谷 やっぱり東通村の良さは「人」じゃないですか。東京にいるときは、ほとんど近所付き合いはなかったですが、今はご近所から魚や野菜をいただくなど、厚い近所付き合いに助けられることもあります。あと、東通村の人って意外におしゃべりだなあと感じます。私は、東通村の人が話す方言の、ガツガツ来る感じも好きですね。親しみを感じます。



素敵な体験と経験ができる!



魅力的な人が多く、自分の夢に向き合える!



挑戦を後押ししてくれる

濱田 食べ物もいいですね。海のものでも山のものでも。どこに行っても作っている人の顔が見えるのは一番いい。これもやっぱり人なんでしょうね。

村づくりが、いい方向に向かっているから、住みやすいつて感じるのだと思います。

大谷 若い人たちが率先していろんなことをやっているから、いいんですよ。それはとても大事なことだと思います。

濱田 東通村は、私たちのように異業種に挑戦する移住者も、地域おこし協力隊として東通村を盛り上げる移住者も受け入れ、暖かく背中を押してくれる、本当にいいところだと思います。

———ありがとうございました———

### 特集30号記念「東通村移住者座談会」にあたって

東通村 畑中 稔朗 村長

本特集記事に先立ち、「東北電力東通原子力発電所広報誌しおさい」が、記念すべき30号の発行を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。

2006年創刊以来、毎号村内各地区の情報などを掲載いただき、興味深く拝読させていただいております。

今回の特別企画では、移住された方を対象とした座談会が行われ、元々東通村に居住されている方とは、異なる目線で村のことを見た場合の貴重なご意見をいただけたと感じております。

東通村に魅力を感じて、この場所で生活したい、何かにチャレンジしたいという方を応援できるように、今後も皆さまのお知恵をお借りしながら、住民主体の行政運営実現に向けて努めてまいります。



かめお たかし 亀尾 喬さん(25歳)



弘前市から2023年1月移住。弘前大学在学中のインターンシップがきっかけで東通村のことを知り、人の素晴らしさに触れて移住。東通村で最初の地域おこし協力隊員として、村の買い物支援車「わんつCAR」で、移動販売と高齢者の見守りを実施。尻屋崎灯台、東通牛、「東通ドン！とボン盆フェスタ」が好き。「いろいろな人がいろんなことにチャレンジし活躍できる村にしたい。また、首都圏へ東通村の魅力を発信していきたい」。

くわはら あんな 桑原 杏奈さん(24歳)



八戸市出身で2023年5月に移住。北海道や京都のゲストハウスで働き、将来人々の居場所づくりに関わる仕事がしたいと模索していた時、東通村のことを知り移住。地域おこし協力隊・空き家コーディネーターとして村内の空き家を調査し、今年中には海が見える宿泊施設とカフェを完成させ、地元の人を集めるスペースにしたいと奮闘中。お気に入りには北海道を望める海からの風景と、音楽祭、海鮮もの。「宿泊施設に村内の人巻き込んで、たくさんの人の挑戦を応援したいです」。



村内各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

# 地元の特派員レポート

写真は特派員が  
自ら撮影したものです。



## 私の自慢の故郷・小田野沢

東通村小田野沢在住 こゝみやざき お  
東通小学校(6年) 二本柳莉央さん(11歳)

私の住んでいる小田野沢は、東通村の南側にあります。

海と山に囲まれた自然豊かな場所です。特に、梅雨時期になると「やませ」の影響で、とても深い霧に包まれ、幻想的な日が何日か続きます。また、小田野沢は漁業が盛んで、新鮮でおいしい



海岸にあがった昆布



昆布切り作業の手伝い

海の幸がたくさん採れます。

その中でも、私の家では春先から秋にかけて昆布をたくさん採り、加工して出荷しています。天気に左右され、なかなか大変で

間のかかる作業なので、休みの日にはおばあちゃんの昆布作業の手伝いをよくしています。

また、小田野沢漁港では毎年、海の日「海の日祭典」が開催され、その催しの中の一つに、小田野沢沖で採れた新鮮なヒラメのつかみどりがあります。2~3年はコロナの影響でできなかったけど、去年から再開し、大きなヒラメをつかみとり、それをお刺身で食べるのが大好きです。

そのほかにも、秋には「小田野沢秋祭り」があり、夏休み中に中学生が制作してくれたたねぶたを引っ張りながら小田野沢を一周します。歩く距離が長くて疲れるけど、みんなで協力し踊ったりするので楽しいです。

小田野沢には、季節ごとに楽しいイベントがたくさんあるので、ぜひ皆さんも一度、小田野沢へ来てみてください。



海の日祭典でのヒラメつかみどり



小田野沢秋祭り



## お寺に生まれて 蒲野沢に育てられて

東通村蒲野沢在住 みくに 三國 しょうどう 正道さん(43歳)

私は当地区にある法林寺の20世住職です。19世である父の三男で生まれ、縁あってあとを継ぐこととなった私ですが、昔からの疑問があります。それは、大規模集落でもない蒲野沢に、何故この規模のお寺と神社があり続けられたのか？

歴史的背景や地理的優位性があったことは村史などを見ると理解できます。豊富な水に恵まれていたこと。当寺でも豊富な湧き水があり、昔は大小多くの池があったそうです。農業、酪農、鉱山、材木など産業を支える基盤があったこと。また、その交易を支える道に特化していたこと。一集落から他集落への旧道は、村内随一です。そして、儀式的行事や娯楽を支えた伝統芸能である能舞もあります。



法林寺山門

もう、これだけで理由は十分かと思えます。ですが、歴史には必

ず浮き沈みがあります。代表的な部分では飢饉や天災などでしょう。村内集落でも津波による被害、飢饉疫病による人口減少などにより集落そのものを移動したり、一度は無くなったところもあります。当寺も、かつて落雷による火災で全焼しました。防ぎようのない災難にみまわれた時、人は神仏にすがることがあります。しかし、神仏は人を育てますが、人を助けるのはやはり人なのです。助け助けられた話は、特に法事の会食の席にて聞かせていただくことが多々ありました。親族のつながりは無くても、昔世話になったからと祖父母の代から交流を続けている家庭。不作により子どもを食わせていけないからと、預かった子どもをわが子同様に育てた方。



当寺の道元禅師の肖像

昨今、人口減少、世界的疫病や天災など、暗い話ばかりが目立っています。時代の変わり目と言えればそれまでですが、変わらないものがあるはず。それこそが、寺に生まれ蒲野沢に育てられた私を感じた「つながり」だと思います。「つながり」こそが人、お寺、神社を護持し続け、その中に私もいるんだと責任を重く感じるとともに、次世代へつなげていけるよう今後も精進いたします。

## 東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4  
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

発行



しおさい、PSつうしんの  
バックナンバーはこちら



当発電所へのご意見・  
ご要望をお寄せください

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に  
末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。

## 編集後記

しおさい第30号、いかがでしたでしょうか？

このたびの第30号という節目の発行に携われたことを、大変光栄に思っています。振り返ると、私は2019年の第21号から担当しており、当時の編集後記には「これから東通村の皆さまとふれあっていく中で、たくさんの方の魅力を発見していきたい」と綴っておりました。これまでのしおさいの取材を通じ、たくさんの方々から言い尽くせないほどのご協力をいただきとともに、たくさんの方の東通村の魅力をご紹介いただきました。また、アンケートでは、毎回多くの皆さまから好評いただくとともに、温かい励ましの言葉を多数頂戴しております。本当に感謝の気持ちでいっぱい。これからも、東通村の皆さまと一緒に、多くの人に愛されるしおさいを作っていきたいと思っております。引き続き、ご愛読のほどよろしくお願いたします。